

2021年度第2四半期決算説明会 質疑応答要旨(機関投資家/アナリスト)

日時:	2021年10月28日(木) 16:00~16:25、17:00~17:20
場所:	三菱電機株式会社 本社 (テレフォンカンファレンス)
当社出席者:	執行役社長 CEO 漆間 啓 常務執行役 経理部長 皮籠石 斉

- Q. 半導体不足の影響について。FA システムの業績は好調に推移しているが、半導体や汎用的な部品の不足で、生産ができないような状況が他社で発生しているが、需要に見合う生産ができていますか。
- A. 半導体、コネクタなど様々な部品が突然欠品を起こすということが発生しているが、様々な努力により生産には対処できている。かなり厳しい状況ではあるが、ほぼ計画通り生産できていると考えている。(漆間)
- Q. 現状は問題ないということか。
- A. 在庫が減り欠品が発生しているケースもあるが、販社で在庫を持つ等様々な対応で可能な限り追従している状況。(漆間)
- Q. 電子デバイスについて。1Q→2Qで売上は横這いも利益は低下。市場が活況にもかかわらず収益性が低下しているのはなぜか。
- A. パワー半導体は好調で、生産は上がっており、売上は伸びている。2Q は特殊要因として、液晶の事業終息に伴う関連費用 37 億円を電子デバイスに直課した。
液晶の終息費用は、当初、来年度発生する計画としていたが、中間の計画見直しの過程で今下期に発生する見込みとなり、今回の決算の過程でお客様からの受注がほぼ確定したことから取引関係で発生する損失を電子デバイスに直課したものであり、これがなければ電子デバイスは前回予想からは比較的大きな利益増となった。但し、競合他社と比較すると改善の余地があると認識しており、現在改善プロジェクトに取り組んでいるところである。(皮籠石)
- Q. 液晶の終息費用 37 億円を足し戻すと、売上は横這いも利益率は改善しているということか。
- A. 前回予想比で、売上高 100 億円増、利益 10 億円増に留まる。実際はもっと利益増が見込めたが、液晶の終息費用が影響した。(皮籠石)
- Q. この費用は 3Q、4Q には出ないということか。
- A. 現時点ではほとんど影響はないとみている。液晶は 2022 年度に生産終了予定であり、サプライヤとの関係での一時的な費用が発生する可能性はあるが、今回の金額ほどには至らないと見ている。(皮籠石)
- Q. 部品不足における在庫の持ち方について。部品により異なるとは思いますが、もし足りない部品があった場合に、通常時に比して、何か月分くらい上積み確保したいと考えるか、その用途のようなものを教えて欲しい。
- A. 製品によってリードタイムが異なるため、会社としてこの部品を何ヶ月持つというような仕組みではない。各事業本部がそれぞれの製品群に合わせて検討しており、このような状況の中でお客様の要望に応じていくた

めにどのような持ち方をすべきかということを検討している。(漆間)

Q. 顧客側でも当社製品を早め多めに欲しいという状況が生じていると思うがそのような発注が起きている事業・製品があれば教えてほしい。

A. お客様についての回答は難しいが、例えば FA の受注は、納期が厳しくなった段階では、代理店や特約店から注文が多く入ることは過去にもあり当然起こり得る。また、海外では、在庫確保が厳しくなると、販社で在庫を持つ動きになることもあり、販社、代理店や特約店において、色々な考えの下、それぞれの考えで運営されている。(漆間)

Q. 半導体不足、素材価格・物流費高騰の影響額は。

A. 素材価格高騰の影響は、年初計画比では、年間 320 億円悪化。1Q 決算時点で 120 億円悪化とみていたものを、今回 200 億円悪化を追加した。前年比では、年間 530 億円の悪化であり、内上期は 250 億円の悪化。年初計画比 320 億円と前年比 530 億円の差は、年初計画時点での織込み 210 億円分である。

部材ひっ迫の影響は、年初計画比売上高 1,100 億円減収、営業利益 375 億円の減益影響とみている。前回予想時は、売上高で 700 億円減収、営業利益で 315 億円減益の影響とみていたが、営業利益影響には受注増減との入り繰りもあったことから今回仕切り直した。年初計画比 1,100 億円の減収影響は、当社自体が部材調達できず出荷に影響が出る分であり、カーメーカーの生産減に伴う当社の受注減は受注増減影響でみている。

受注増減は合計で年間 760 億円増収とみており、FA システム・空調冷熱が増収、自動車機器・社会インフラ・電子システムが減収。

物流費高騰も影響は出ているが、受注増や価格反映で相殺できる部分もあり影響額は受注増減影響に含まれる。実額としては年間約 160 億円の減益影響とみている。(皮籠石)

Q. 報道等によると、当社のパワー半導体は遅れているのではないかとされているが、今後の設備投資増の予定や方向感は。

A. 福山工場が 11 月から稼働開始予定。昨年来 8 インチのラインを投入、あわせて 12 インチのワンパスラインの投資も現在実施しようとしており、今後需要に合わせて適切なタイミングで投資をしていきたいと考えている。(漆間)

Q. 福山工場稼働によって生産の力はどのくらい増えるか。

A. 売上高の増加分と捉えていただきたい。(漆間)

以上